れば、むねもりのきやうなみだをはら〳〵とながひて、いかにたゞ今さる御こと候べき、しばらく世をしづめんほど、鳥羽の北殿へ御かうをなしまいらせよと、父のせんもん（清盛○平）申候と、申されたりければ、更ばなんぢやがて御ともつかまつれとおほせけれども、父のせんもんのきしよくにおそれをなして、御ともにはまいられず、これに付ても、あにの内府（重盛○平）には、事のほかにおとりたる物かな、一年もかゝる御目にあふべかりしを、内府が身にかへて、せいしとゞめてこそ、今日までも御心やすかりつれ、今はいさむるものゝなきとて、かうはするやらん、行末とてもたのもしからずおぼしめすとて、御なみだせきあへさせ給はず、さて御車にめされけり、公ぎやう殿上人、一人もぐぶせられず、北面のげらうと、さては金行といふ、御りきしやばかりぞまいりける、御車のしりには、あませ一人まいられけり、此あませと申は、やがてほうわうの御ちの人、紀伊の二位の御事也、七條を西へ、玄ゆしやかを南へ御かうなし奉る、あはや法皇のながされさせおはしますぞやとて、心なきあやしの玄づのお、玄づの女にいたるまで、みななみだをながし、袖をぬらさぬはなかりけり、

〔玉海〕壽永二年十一月十九日己酉、早旦人告云、義仲已欲襲法皇（後白河○）宮云々、（略○中）及申刻官軍敗績、奉取法皇了、義仲士卒等、歡喜無限、即奉渡法皇於五條東洞院攝政亭了、武士之外、公卿侍臣之中矢死傷之者、十餘人云々、夢歟非夢歟、魂魄退散、萬事不覺、凡漢家本朝天下之亂逆、雖有其數、未有如今度之亂、義仲者是天之誡不德之君、使也、其身滅亡、又以忽然歟、愁生見如此之事、只可耻宿業者歟、可悲可悲、

〔吾妻鏡 二十五〕承久三年六月十五日戊辰、寅剋、秀康、胤義等參四辻、彼於宇治勢多兩所合戰、官軍敗北、塞道路之上、已欲入洛、縱雖有萬々事、更難免一死之由、同音奏問、仍以大夫史國宗宿禰爲勅使、被遣武州（泰時○北條）之陣、兩院（土御門、院、○順德）兩親王令遁于賀茂貴舟等片土、御云云、（略○中）巳剋相州（泰時○北條）武